宇宙のあの娘と
Gんばりたい
のG!!
G's Universal
Gの宇宙世紀
Century Girl's
G娘

U.C.0068

「ラルおじさん
こっちこっち♥」
「アルティシア様 そんな格好
はしたないですぞ」

「ねえおじさん…
今日もエッチな遊びして…♥」
「ア、アルティシア様……
はぁはぁ」

「えへへ
はだかんぼになっちゃった❤」
「うううッ アルティシア様の…
すじッッ！」

「あっ？　お、おじさん…
そんなとこなめるの…？」
「はぁはぁはぁ、アルティシア様の
オマンコ…しょっぱおいしいですぞ」

「おっ、おじさん…ッ
ここれすごい…ッ　きもちいいよぉ」
「グヒヒ、アルティシア様は
感度がおよろしいですなぁ」

「ラルおじさん…いつもの…してオチンチンいれてぇ…♥」
「ウウウッ、自らおねだりとはこのラル、戦場において戦場を(略)」

「あああッ　ふかいよッ
おじさん　らんぼうにしないでぇッ」
「ウオオオッ、まだまだきついッッ
これがロリマンコの性能だというのか」

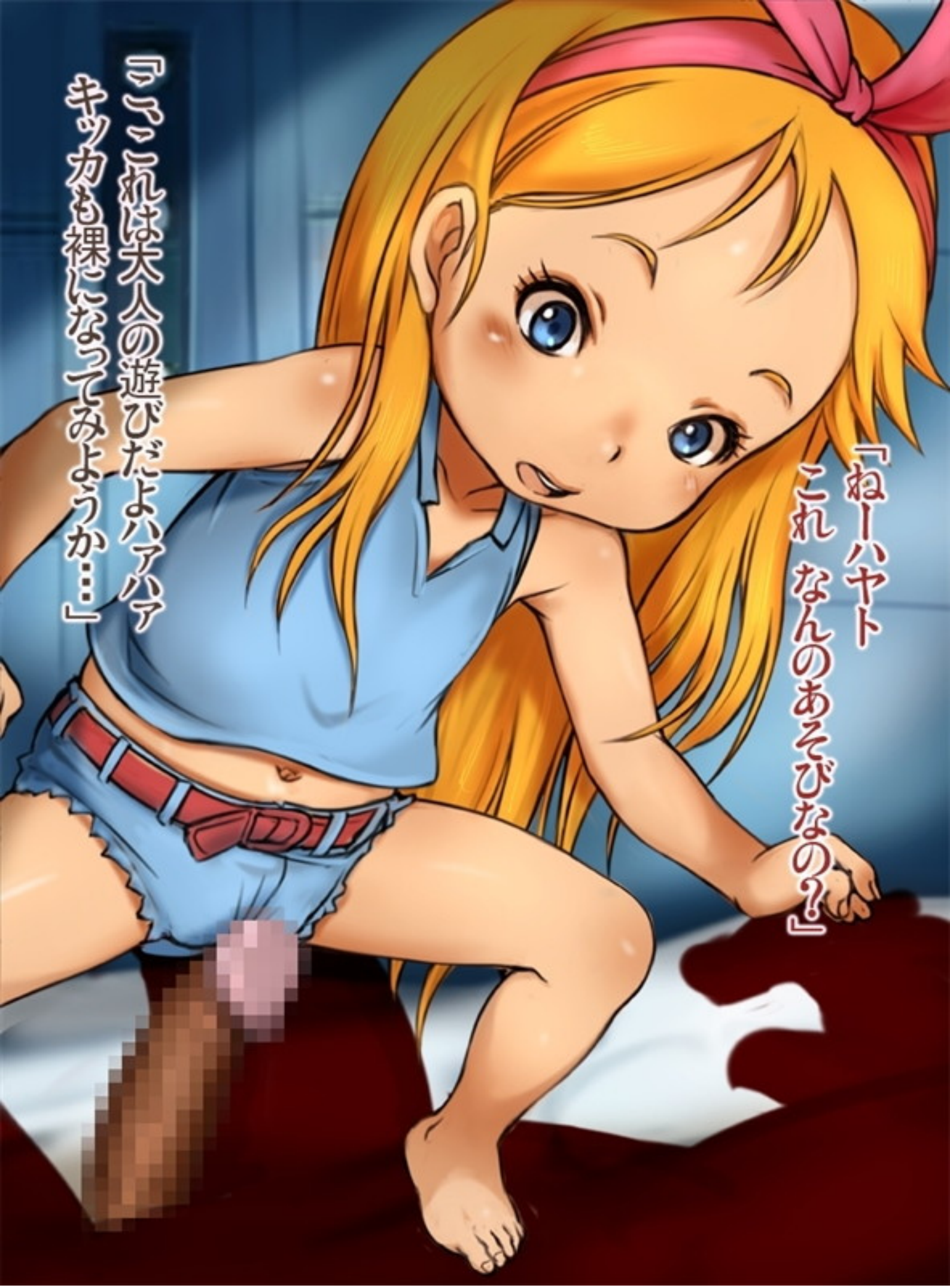
「あんっ♥あんっ♥
おじさんッ♥いいッ♥キモチイイッ♥」
「ウヒヒ、そのような嬌声を上げて…
猫ちゃんにも聞かれておりますぞ」

「あっ!? だめっ ルシファ
みないでっ きちゃダメぇッ」
「オオオッ、さらにマンコが
きゅんきゅんと締まって……ッッ」

「はへッ♥いくッ♥
オマンコいくぅぅぅッッッ♥」
「うぅッ こちらも出るぅぅッ」

「はぁはぁ…… ラルおじさん 大好き♥
おとなになったら およめさんにしてね♥」
「ハッハッハ よろしいですとも……」

U.C.0079


「ねーハヤト
これ なんのあそびなの？」
『ここ これは大人の遊びだよハァハァ
キッカも裸になってみようか…』

「オチンチンとオマンコくっつけるの？
こう？」
「おッ、そ、そうだよ…ウウッ
うまいぞキッカ…」

「はぁはぁ…ハヤトぉ…なんか…
オマンコがむずむずしてきたよぉ…」
「ウウウッ、キッカのオマンコぷにぷにで…
ぬるぬるが…はぁはぁはぁはぁ」

「ひぎゃ…ッ！？」
「わッ！？　ち、チンポ入っちゃった…ッ」

「いぎゃッ　いだいよハヤトおッ
も、もうやめるぅ！」
「はぁはぁ…キ、キッカで…童貞捨てちゃった…
うぅッ　マ、マンコ　き、きもちいい……ッッ」

「あーーーッッ！
な、なんかでてるぅッッ」
「はぁはぁはぁはぁ…フラウッ
いくよフラウぅッッ
ウウッ」

U.C.0087

「ふふっ♥ ハヤトったらまたパンツ見てる
いいよ エッチしよっか？」
「な、何言ってんだよキッカ
いくらフラウ達が出かけてるからって…」

「何言ってんのよ　昔はそんな事なんか
お構い無しに物影でハメてきたくせに
ホラはやく脱ぎなさいよ」
「うう…で、でもボクらは父子なんだぞ…
こ、こんな事は……」

「う…ッ、そ、それに関しては申し訳ないと…
だ、だからさ、今後は父と娘として……」
『今更そんな事言う訳？　フラウ母さんの
名前叫びながら、あたしをオナホみたいに
使ってきたのに？』」

「フフフッ　こんなにチンポびんびんにして
言っても全然説得力ないわよ？」
「あうぅッッ　キ、キッカ…ううぅぅ……ッッ」

「んはぁんッッ♥」
「こっ、このエロ娘めッ ボクが必死でガマンしてるっていうのに…おッおしおきだッッ」

「あはぁッ♥ シてッ♥ おしおきチンポもっとしてぇッ
パパのチンポイイッ♥ んあぁーーーッッ♥」
「うぐぅうッッ すッ吸い取られるみたいに…
出るうううう……ッッッ」

「はぁはぁ…やっぱあたしのオマンコはこのチンポの形になっちゃってるもん…だからずっとシてくれきゃダメだよ……ハヤトパパ❤」
「うう…キッカ…ごごめんよフラウ……」

「ねーおじちゃん なにするの？
はやくチョコちょうだいよぉ」
「ウヒヒ じゃあおじさんの言う事を
ちゃんと聞いてね まずは服を脱ごうか」

「ぬいだよー」
「おおッ いいイイねえ…褐色ロリマンコ…ッ」

「あ…チンチンだ」
「ウウウッたまらんッ　はぁはぁはぁはぁ」

「わっ？　な、なんかでた…
白いオシッコだ…ヘンなのー」
「ウウウッ　はぁはぁ　クムちゃん
次はもっと面白いことしようか……」

「おもしろいの？
うん いいよー」
「グヒヒ じゃあお股を開いてね……」

「ふぎゅうう…ッッ!?」
「オオッ は、入るもんだな…
き、きつい…ッ」

「い、いたいっ おじちゃん これいたいよぉッ
もうやだぁ やめるぅッ」
「も、もうちょっと…もうちょっとだから
……ウウウッッ」

「んあああッッ　おなかがあついいッッ
あーーーーッッッ」
「オオッッ　オッ　オッ　イイッ
褐色ロリマンコ最高ッッ」

「はひゅう…ッ ひゅうッ
ひゅー……ッッ」
「ウヒヒヒ しばらく部屋でハメ倒すか
こんなチビ居なくてもバレないだろ…」

「ミネバ様、本日もザビ家再興の為の訓練を始めますぞ
すみやかにご準備を」
「わ、わかっておる…！」

「本日もつるつるロリマンコでございますなミネバ様
まったくもって貧相なお身体で」
「よ、余計なことは言うな！」

「もっと舌を使いなさい　ザビ家再興の為にはその全身を
余すところ無く使わなくてはなりませんぞ」
「……」

「ウウッ　ミ、ミネバ様ッ
い、いつもの台詞をッッ」
「……ミ、ミネバの生意気なロリ顔に、ザーメンぶっかけてください…せ、せいえきでどろどろにしてください…」

「ウグッ、で、出るぞッ
この能無しの小娘がッッ！」
「ぷあッ あ…ッ」

「はぁはぁ、さて次はマンコを使いますぞ
さっさと股を開きなされ」
「……うう」

「うぐぅうッッ　ま、まだ痛いのだ…
も、もっとゆっくり…ッ」
「そんな事ではザビ家再興などできませんぞッ　オラッオラッ」

「はひいいいいッッ
ああーーーーッッ」
「うぐうううッッ オラッ中出しだッ
孕めッ 孕めエエエッッ！」

「はぁはぁ…　こ、これが本当にザビ家再興の為に
役立つのであろうな…？」
「ウヒヒヒ、もちろんでございます
いつしか必ずや　ウヒヒヒヒヒ……」

U.C.0088

「じゃあ撮るよ プルちゃん
ピース！」
「いえーい ぴーす❤」
「しかしいいのかねえ
実験体にこんなイタズラ
しちゃって……」

「クソ長くて地味な任務なんだ
このくらいの役得があってもいいだろ」
「ねーはやくぅ
きもちいーことしようよぉ」
「まあ確かに…
本人も乗り気だしな…」

「おらよっ！
このエロ娘ッ」
「あはぁッ
オチンチンきたぁッ❤」
「おにいちゃんのオチンチン
おっきくて好きぃっ❤」

「チンポなら何でもいいんだろうがッ
強化人間は皆淫乱だって言うしな」
「ふぁッ♥
そんな…ッ ことないよぉッ」
「おにいちゃんの…
おにいちゃんのチンポが
いいのぉッ♥」

「ウウッ 出るッ」
「あッ♥出てるぅッ♥
おにーちゃんのせーえき
おまんこでどぴゅどぴゅ
してるッ♥」
「いくっ♥
プル おにいちゃんの
せーえきでイくよぉッ♥」

「はぁはぁはぁ……」
「あはッ♥もっとぉ♥
そっちのおにいちゃんも
オチンポはめてぇ♥」
「やっぱ誰のチンポでも
いいみたいね……」

「じゃあこっちの穴にチンポくれてやるよッ」
「おほッ❤おしりぃッ❤おしりのあなにオチンポはいってるぅッ❤」
「しゅごいッ❤おしりのチンポでオマンコいくぅうッッ❤」

「へへへ、この画像、他の連中にも送って沢山チンポ募集してやるからな」
「えへっ♥やったぁ♥おにいちゃんたちプルのオマンコハメにきてねー♥」
「そうだ 妹たちもいっしょにシたらもっときもちよくなれるかな…」

「や、やめるんだプル…
もうこれ以上は……」
「おにいちゃんたち
はやくはやくぅ♥
オチンポちょうだいよぉ♥」

「んはぁんッ❤」

「ああ…プル…
おねがいだ…もうプルに
ひどいことしないで…」
「おおおッ❤
おほぉおおーーッ❤」

「あはーッ♥
きもちいいーッ♥
きもちいいね
プルツーうう……」
「あああ……ッ
あーーッッ♥」

「あはぁーッッ♥はぁーッ♥」
「えへ♥えへへへ……♥」
「おいおい大丈夫か
こいつらもう使い物に
ならないんじゃ…」
「大丈夫だろ どうせ
再調整したらお互いの
事すら忘れちまうんだ
からさ……」

「あの…これでいいですか…？」
「フヒヒ えらいねぇ～リィナちゃん
生活の足しにこんな事まで…
でも約束どおり下も脱いでねえ～」

「ううっ……ぬ、脱ぎました」
「おおッ　いいね～生えかけマンコッも、もうたまらないよぉ～」

「え…？　きゃあッ！？」
「ウヒヒヒ　おじさん達のチンポ
リィナちゃんのせいで
こんなにおっきくなっちゃったよ」

「あ…あの……み、見るだけだって……」
『はぁはぁ、見るだけだよぉ～
チ、チンポは、するけどね
…はぁはぁはぁ」

「え……？　ヒッッ！？」
「オオッッ　出るッ　出るウウッッ！」

「ううう…っ　わ、わたしもう
帰ります…っ」
「はぁはぁはぁ…
リィナちゃんにぶっかけちゃった…」

「あっ？　な、なんですか…？
は、はなして…ッ」
「ご、ごめんねリィナちゃん
おじさん達やっぱり見るだけじゃ
ガマンできなかったよぉ～」

「うぎいいッッ！？
ひぎぃッ」
「ウ、ウヒヒヒヒッ
リィナちゃんの処女マンコゲットぉ～」

「あぁッ 痛いいいッッ
あああぁーーーッッ」
「オオッ オッ
は、初めての中出しイイイッッ」

「それじゃあ料金の分まだまだ
ハメてあげるからねえ～グヒヒヒヒ…」
「あう…ううう…ッ
お…おにいちゃん…たすけてぇ…」

U.C.0123

「それでね こうすると
こうなるんだよ♥」
「はぁはぁ…リィズちゃんの
パンツ…ピンクパンツ…はぁはぁはぁ」

「もうっ エラスさん聞いてるの!?
さっきからパンツばっか見てるでしょ」
「ギクッッ そそそ そんな ことは…
あ、ありますけど……」

「ふふっ じゃあ もっといいの
見せてあげようか？」
「へ？ も、もっといいの……？？」

「えへっ♥」
「わっ!?
リ、リィズちゃん…?」

「んふふ わたしにエッチな事してもいいよ エラスさん♥」
「リィズちゃん…ゴ、ゴクリ」

「ねえねえ
エラスさんって童貞なの？」
「う、うん…リィズちゃんは
結構慣れてるんだね…その歳で」

「だってわたし
おとうちゃんにシてあげてたもん
じゃあエラスさんの童貞もらってあげるね♥」
「リィズちゃん…て、天使か…」

「あ…そこだよ…そのまま…
あっ はいったぁ♥」
「うおおッ ここ、これが女の子の中…
うねうねして…す、すごい……ッ」

「あはッ あッ❤ イイよッ❤
もっとうごいてッ❤ ずぽずぽしてぇッ❤」
「うぐぅうッッ
リィズちゃあんッッッ」

「あッあッ♥でてるッ♥おまんこにせーえきでてるよぉッ♥あったかぁいッ♥」
「ウウッッ すごいッッ信じられないくらい出るぅウゥッッ」

「はぁはぁ…ねえ　わたし少しは
やくにたてたかなぁ…？」
「うう…そ、それはもう…ッ」

U.C.0153

「あ、あの、時間は『時間で
あとこれ…付けてくださいね」
「わ、わかってるよ
はぁはぁはぁ……」

「き、汚いパンツだな…
オシッコ臭いし…はぁはぁ」
「あ…替えが…
あんまり無くって…」

「な、舐めてよ！
はぁはぁはぁ」
「あ、はい……
ぺろ…れろ…」

「ま、まだろっこしいな
もっと奥まで咥えろよ！」
「うぐ…ッ
うう…ッッ」

「ウッグッ
うう〜ッッ」
「ぷあッッ
あ…ッ」

「はぁはぁはぁ…ッ
いッ いくぞッ 入れるからなッ」
「あ…ッ？
あ、あの ちゃんとつけてくださ…」

「うおおおッッ」
「あああッッ！
だ、ダメですぅッ」

「はぁはぁ、そ、外に出せばいいだろッ
金払ってんだからサービスしろよ
この売女ッ！」
「あうッ　あッ
そッ　そんな……」

「ウウウッッ 出るゾ
出るぅぅッッ」
「ああ…うそ…
な なかに……」

「はぁはぁ…　あ、赤ん坊
抱えて大変なんだろ？
ま、また来てやるからな」
「……
……うう…」

「ぺろっ れろっ
ねー きもちいーい？」
「い、イイぞ スージー
先っぽ咥えて…はぁはぁはぁ」

「ぱくっ
ちゅうっ ちゅうっっ」
「オオッ スージー
いいイクッッ！」

「あはッ♥
でたでたぁ♥」
「ウグウウッッ」

「えへへー♥
せーえきいっぱいでたねー♥」
「はぁはぁ…チンポしゃぶり
上手になったなあスージー」

「ねー こんどはあたしが
きもちよくなるばんだよ♥」
「え…っ ここでか？
ま、まあいいか……」

「うあぁんッ♥あっ♥あっ♥
はぁっはぁっ♥はぁんっ♥」
「ス、スージー そんなに
腰振って…は、激しいな」

「あっ いくっ♥いくうッッ♥
あッあーーーッッ♥あーーー♥」
「こ、声でかいって…ッ
ウウッ こっちも出るッ」

「あーきもちよかった♥
またしようね オデロ♥」
「いいけど… エリシャには
内緒だからな……」

U.C.0092
～96

「ママッ！　パパぁッ！
たすけてぇぇッッ」
……隣室から、さして
珍しくない内容の
叫び声が聞こえてくる。
「ウウウッッ
だ、出すぞオラァッッ」

今日のマスターが
くぐもった呻きと共に
わたしのなかに
精液を吐き出した。
「へへへ…
どんだけ出しても
妊娠しないってのは
便利だなあ」

隣からはもう叫び声は
聞こえない。
黙らされたか、
死んだか……
もしくはわたしと
同じように
何も感じなくなったか。

「ぶぎゅっ ぐぅっ」
大きな身体に
のしかかられ
わたしの喉から
音が鳴った。
呼吸の苦しさも
断続的な膣の痛みも
もうどこか他人事だ。

「あ…ッ　あは…っ」
それでも時折
胎内に出される
液体の温かみに
笑みがこぼれる
ことがある。
理由はよくわからない
でもそれが
わたしをなんとなしに
生へと繋ぎとめている
気がする……。

「おじちゃんだれ…？
ママはどこいったの…？」
「ああ、ママなら別の部屋で気持ちいい事してるよ
ほらマリィちゃんもお洋服脱ごうねえ」

「あ……ッ」
「フヘヘ、こりゃなかなかなの拾いもんだな
どれさっそく味見といくか…」

「え…？　なに？
なにするのおじちゃん…」
「くッこりゃ　さすがに小さすぎるが…
おッ　いけるかな……」

「いぎいいいッッ
いだッ いだいよぉッッ！」
「おおッ こいつはなかなかいい具合だ…
マリィちゃん 才能あるねえ グヒヒヒ」

「かは…ッッ
ママ…ママぁ……」
「ヒヒヒ、ママも今頃お楽しみ中だよ」

「あ…う…パ…パパ……
……」
「あらら、もうおとなしくなっちまった
こりゃ長くはもたんかもなあ……」

A.W.0014

「……」
「ウヒヒヒ、ティファちゃん 今日の実験は
これを着て行うからね ささ着替えて」

「……」
「ウヒッ よく似合ってるよぉ～
じゃあ股を開いてみようか」

「……」
「はぁはぁはぁ…エロいねえ～ティファちゃん
名残惜しいけどそれも脱いじゃおうね」

「……」
「な、なんだその反抗的な目は！
だ、誰のおかげで披見体として永らえてられると……」

「……ッッ」
「はぁはぁはぁ 今日も中出し実験だッ
オラもっとマンコ締めろッ」

「ああ……ッ あーーッ」
「ウウウッ この出来損ないの
人工ニュータイプがッ エリートの精子を
喰らえッッ」

「……」
「うぅ……」
「フヒヒ　妊娠したら子供も実験体として扱ってやるから、安心して孕むんだなぁウヒヒヒヒヒ……」